

和
語

公卿部下

四

9
4062
4

門 9
號 4062
卷 4

倭論語卷第四目錄

公卿部下

藤藤房

藤定宗

藤雅清

平行時

藤宗兼

菅高能

藤資氏

清原良枝

藤師賢

藤冬信

平成輔

源有資

藤為明

菅茂長

藤經朝

大江重房

源清通

藤兼嗣

藤師平

藤道教

藤政忠

藤持通

藤兼良

藤教房

藤資親

藤實基

藤賴繼

藤宗泰

藤基信

藤基國

藤俊基

藤氏種

藤資教

藤重光

藤政賢

藤教光

藤保光

藤資衡

藤資廣

藤兼綱

卜部兼豐

藤隆仲

藤隆基

藤隆卿

藤言繼

藤良嗣

藤房平

藤政基

藤尚經

藤房家

菅長直

菅長方

菅為清

菅秀長

菅益長

源重治

源重保

源通言

源俊量

藤信量

藤元長

藤政顯

藤俊顯

藤宣胤

藤季時

藤涉繼

源材親

源通秀

藤政長

藤雅親

藤家房

藤尚顯

藤宣俊

藤賢房

藤範久

藤英兼

藤季國

藤公賴

藤實望

藤公行

藤實宣

藤公兼

藤實敦

藤基春

藤政為

藤隆量

藤季時

藤實隆

藤實遠

藤公興

藤季種

藤實仲

藤宗綱

藤基國

藤隆繼

藤隆康

藤冬光

藤内光

藤廣光

藤縁光

藤光繼

清原枝賢

橘以量

中原師弘

源俊量

藤兼俱

藤晴嗣

藤信基

藤實澄

藤晴季

藤雅敦

源重秀

源通勝

藤輝資

藤光廣

藤光豊

藤信尚

藤兼孝

藤昭實

藤内基

藤綱光 兼綱下

藤氏成 光豊下

公卿部下

万ま里で小こ路うし藤とう房ぼう大だい仙せん言ごん常じょう談だんにいおおハハ家けとわも
 ろろももななくくしし。吾われ愛あい乃なるるややううううびびて。
 仁じん義ぎよよくくううううぬぬものものなりなり。我われ家けハハ武ぶ家けととし
 とと往わう福ふくをを武ぶ乃なるるややううううああ。勇ゆうにに又またににうううう
 ぬぬものものなりなり。生なま家けハハ女にょ家けににととれれ福ふくをを佛ぶつ々だくく
 ろろううううびびてて戒かい法ぽうををううききものものなりなり。いい外がわ
 そそののの家け業ぎやうににううややううぬぬをを。そそののの家けににああううししはは
 ふふなりなり。今いま御ご宇う宇う世せ智ちににううううくくもものの能なりええずず

友乃人又ハ家より人をもいづるまじくハ友
位ハ君乃物ありて家乃先王の命をたもつもの
なりといひたり

花山院從一位内大臣師信之男也正二位大納言母槽
惠女也元弘元年九月廿九日薨四十九歳号一如院
藤定宗曰金銀珠玉をたうやと世をそや
くちくられども言ふなり人成をそたうとする
世をそしてくもく天卜永くやして久し

中山正二位系儀家親之男也從二位權中納言母
休守源頼保女也應安三年十月五日薨五十五歳

藤冬信云曰万乃々を執りする人執りしる乃るを
どうゆん乃心ある人うもくびよ乃位ハ
物なるもくどえよりんくハあど悪くを
とのきからひくおんか執り乃らなり執り
成然してはくどうゆんの又まの乃るあら
し。あハ井蛙者なり

大炊御門内大臣冬成之男也從一位内大臣母大納言
經長之女也貞和六年七月十五日薨四十二歳
藤雅清曰皆人毎ハ内は徳ありのハるあくびカ
ん乃うめて天助ありやえをあらう一な

祇とも。うぐさるいあ〜ど。此事ありあハ。何え
がけとえざらんや。あ〜ぶがゆかなる。下や。初
下。カビよ。さや。ある事。乃。はとえなる。ねとい
る。は。大う。こ。あ。ぬ。なり。

飛鳥井大納言雅縁男也正二位中納言永享十三
出家法名祐雅文和五年七月朔薨贈大納言從一位
初号推氏改推章又号推世

平成輔言曰。言。ま。く。に。出。る。の。ハ。れ。び。事。ま。く。
な。ひ。の。ハ。く。く。さ。と。さ。る。皆。人。乃。終。ち。わ。る。は
あ。て。あ。ら。ひ。る。過。り。なり。且。よ。お。り。ひ。タ。よ。こ。念

をさつ。おえどは及びやみえあり

鳥丸正二位中納言惟輔男也泰儀正三位元弘二
年五月廿二日於伊豆國早川之宿梟首依天下
事也

平たのゆ行時い曰。人物ひともの乃な成なり功こうを。あ。て。ん。や。あ。り。ん。の。は。ひ。り。男
を。敵てきと。さ。ぐ。少。味。方。い。し。物。皆。敵。なり。て
終。よ。切。立。へ。う。び。や。あ。る。下

西洞院右大將行幸男也少納言右大弁泰儀正三
位應安二年十一月四日薨四十六歳

源有資とありのあり曰。さ。い。い。わ。れ。と。さ。ら。う。び。ど。わ。さ。い

玉^{たま}邊^へどもをわ^わへばど^ど方法^{ほうほう}よう^{よう}の^のら^らあ^あく^くあら
 ん^んう^うは^はし^しの^の人^{ひと}なり^{なり}と^と皆^{みな}人^{ひと}れ^れの^のよ^よう^{よう}に^にま^ま
 て^て今^{いま}日^ひ生^いき^きく^くる^る人^{ひと}の^の物^{もの}よう^{よう}に^にま^まを^を死^しす^すに^にの^の
 ら^ら福^{ふく}む^む生^いか^かなり^{なり}

庭田從二位時賢之男也。正二位中納言時久。日鈴虫
中納言法名阿寐改正佛母忱貴正嫡定綱女
也。文永九年七月十一日薨。六十九歲。

藤宗兼朝臣曰。人富貴なり令長とりのを
ては美掬を求く者いふなり人を侮まかりい
なまむくあるにや云ふ。可公のまゝにして。

子^し原^{はら}のさうらばうらうらびく。そのまういめらうひ
ーやせまりぬらうをわとれぬや

守御門中納言冬定男也冬儀九人并東大寺
長官建武四年二月十七日依天下事被誅

藤鳥明^{とうりゅう}曰^い。びく。乃人^{ひと}なり。み。そ。う。い。詞^{ことば}ハ。な。こ。
ま。と。あ。げ。く。ど。候^あ。れ。と。あ。て。と。の。け。う。も。こ。
さ。う。て。さ。う。ま。う。な。は。ま。と。乃。好^{この}。に。此^{この}。の。あ。
ま。と。あ。く。詞^{ことば}。ハ。お。い。乃。う。ん。候^あ。ま。
し。と。候^あ。の。根^ね。ハ。ま。な。ま。は。あ。く。く。い。む。し。
ま。あ。り。ぬ。ま。と。時^{とき}。を。あ。く。い。ま。の。な。う。先^{さき}。を。さ。

和言言卷江

大

菱式ノ大埔義ヲ朝臣戌長者式ノ大埔從三位

月十四日薨

和論五卷

正二位長繼^{ちやうけい}二男也号^{なづ}東坊城^{とうぼうじやう}木工頭^{もくぎだう}正三位
 康永二年二月三日於^お車中^{くるまなか}殞死^{おち}六十一歳
 藤資氏朝臣^{とうしけいしあそ}曰^い凡人^{おのれ}居^ゐ一大^{ひと}日^ひ乃^{すなは}公^{きみ}なり
 そろそろ^あ来^き日^ひ乃^{すなは}公^{きみ}なり
 的^{てき}面^{めん}の^うみ^みに^ある^る人^{ひと}

通^{とほ}正二位大納言^{おほのくさねの言}資^し子^こ男也^{おとこ}正四位下^{しやう}左中將^{さちゆうしやう}母
 友女也^{ともめ}弘安七年四月廿日出家^{しやう}嘉元四年九
 月十五日薨^き五十四歳

藤經朝^{とうけい}曰^い人^{ひと}毎^{おの}日^ひ第^{だい}一^{いち}書^かり^るな^なき^き人^{ひと}の^の第^{だい}一^{いち}

よ^よう^うき^きく^く手^て持^もて^ての^の情^{じやう}霊^{れい}乃^{すなは}公^{きみ}なり
 ぬ^ぬる^る公^{きみ}地^ちの^の情^{じやう}霊^{れい}乃^{すなは}公^{きみ}なり
 一^いく^くち^ちの^の中^{ちゆう}に^にい^いる^る人^{ひと}

從三位左京大夫行^{ぎやう}休^{しゆう}郷^{きやう}男也^{おとこ}能^よ書^か号^{なづ}白川^{しやくせん}資^し
 男^{おとこ}從二位左京大夫法^{ほふ}名^な寂^{じやく}朝^{あそ}建治二年二月二
 日薨^き六十三歳依^よ造^{ぞう}位^い記^き之^の北^{きた}罪^{つみ}被^ひ遣^{けん}京^{きやう}師^し
 清原良枝朝臣^{きよはららよえ}曰^い人^{ひと}の^の公^{きみ}なり
 あ^あや^やう^うの^の公^{きみ}なり
 い^いも^もあ^ある^るの^の公^{きみ}なり
 此^この^の公^{きみ}なり

清原大内記良季朝臣男也龜山後宇女後二
条花園後醍醐光嚴六朝之侍讀也穀倉院別
當主水正主計頭大膳大夫局務博士大外記正
四位下内昇殿元亨三年二月廿八日出家う室
北京律掛塔泉福寺元弘元年十一月朔日平
七十九歳

大江重房に曰人信なり時を可なりしが此の時
色か多しぬ信を則祿なりが故なりと人毎
ころ半なきも水城をく心ゆめ人をも過さなり
あゝ他乃此をなしていまも使氣とぬ人の

みく世のあまのなりけり

大江信房朝臣男也大内記從三位母源泰
經朝臣女正應五年三月十一日出家同十二日平
源清通公曰君なりと龍馬を好むとて
帝なりとく。おとく。民よなり。はく。は。
皆此國乃先兆なり。當位にさう時れらびなり
十八歳月とハ謙徳の人ハぬなり

久世大納言通宣男也從一位太政大臣号後
久世亨徳二年九月五日薨
藤兼嗣公曰自他の月ありて書録なりなり。

そのまゝに云ふやうに書はゞのりハ
悪きことをさすくやうに人れおしとく
なりとていふもわくもあらずとる
界乃通かたうとてぬハ下にいふこと
なり

近來國白道嗣る男也氏長者孫政國白從一位
左大臣母内大臣實復る女嘉慶二年三月廿
六月薨号後六條殿

藤師平云曰諸人相違乃時一言とてとめとれ
とけねる巻するいふやうとて物なりといふ

名若愚ハ志まぬとてふ心なりふもいと
よもいふやうとてふなり

鷹司國白冬教云男也正二右大臣國白母中將長平
女也文和二年八月六薨四十六歳号昭光院實冬
平云子也

藤道教云曰世よとていふ人々を可なりといふ
ぬやういふとていふなり時よとていふとて
是やういふとていふなりとていふとていふ
とていふとていふとていふとていふとて
人乃いふとていふとていふとていふとて

二条園白詩基の男從一位園白太政大臣明應二
年正月十二日薨七十三号大深金剛院

藤兼良の白。人小智にして大智乃人成なり。あつや、
るも星をみて月なりや。あつや、るも星をみて月なりや。あつや、
あつて一通のめぐり。あつや、るも星をみて月なりや。あつや、
位よりなるなり。あつや、るも星をみて月なりや。あつや、
みをおろなり。あつや、るも星をみて月なりや。あつや、
バ

一条園白經嗣の男也從一位准三后園白右大臣
母式部大輔秀長女也文明五年六月廿五於

南京出家号覺惠同十一年四月二日薨于時八
十歳号後成恩寺

藤教房の白。他人をいやり。あつや、るも星をみて月なりや。あつや、
ハ。あつや、るも星をみて月なりや。あつや、るも星をみて月なりや。あつや、
言。あつや、るも星をみて月なりや。あつや、るも星をみて月なりや。あつや、
や。あつや、るも星をみて月なりや。あつや、るも星をみて月なりや。あつや、

一条園白兼良の男也氏長者從一位園白母中納
言宣俊女也文明十二年十月三薨号妙華
寺

藤資親の白。欲心。あつや、るも星をみて月なりや。あつや、るも星をみて月なりや。あつや、
藤資親の白。欲心。あつや、るも星をみて月なりや。あつや、るも星をみて月なりや。あつや、

無欲なり時ハもろくノ吾生と人吾とハ吾とあり
かんぞぞ欲ふあふざらんや

日野大納言有光男也嘉吉四年九月廿三日
父隱謀之時被誅と泰議左大弁法名如空
藤実基云在位乃時ハ龜山殿建らもんとして地と
引あらうらるに世に大なり蛇あふとぞの教らう
それく一乃塚のうらり出といひけるありなり
一諸皆是ハ世而乃地主神なりとておぼされ
て既勅回ありけるに世相國乃いづくまにをん
虫今皇居を建らうに何乃あふとぞなとて人
と

鬼神ハ邪なりとてむべし皆誅せしめ
武家ハ作らるる塚をあらう蛇とてのそは大
井川よりなりとてしらる何乃あふともなり
るに世相國乃心邪なるとなりや人々感懐
及めと

徳大寺左大臣云継云男也号後徳大寺或曰水
本殿從一位太政大臣母舞女夜叉女父永二年九
月十九出家因性建治二年七月十五日薨
藤頼継朝臣曰をのまがまのなりとて地をむ
くあふとてなりとて地乃利をあら

位大納言永德元年出家忠寂没月未考

や
お
も
ろ
微
塵
之
あ
た
免
よ
此
所
に
在
る

金は道なり。天下乃平世なり。んやもろく乃
功を立ぶる事をや

月野中納言兼卿男也從一位准大臣母從五位下豐子神祇伯資忠女文明九年二月十四

日薨^ス四十七歳法名秀寂号引接院
ト部^の兼^の豊^{とよ}朝臣曰^{あそん}うま一陽^{ひつやう}わくもくく乃^{なり}ら。

よき事にてある事。あぐまけり。さういふ
あじななり。かきく。接合。祢道。おもしろく。と。然。如。分
つ。陽。を。氷。なり。清。なり。故。は。祢。祭。は。偶。汚。を
甚。い。じ。なり

大戴冠世二代神祇大副兼復朝臣男也同
神祇大副正四位上行刑部大捕依急函道言
沒自不託

藤隆仲曰。吾人を當神乃心をいふ。連てて。高神とせしむるなり。小人を高神乃心とせしむるなり。たゞ外見の儀なり。

四条中納言隆持男也正二位中納言應永四

年十一月十二月卒五十六歳

藤隆交曰吾人を物を利きくもの怒く物なり
をやりてそのまよやとを貪福難乃
三つ時よりいぢくそのまよにあらはるる

油小路中納言隆信男也実顯保之男也氏戸

正二位中納言應仁二年六月六日卒

藤隆卿曰人易か半海は洋満し定りかけ
る物ありて前より後より必難あり
四条三位隆宗男也善勝寺長者從一位

大納言應永十年十二月十二日薨法名宗祐

藤言經曰吾人を物に利きくもの怒く物なり
をやりてそのまよやとを貪福難乃
三つ時よりいぢくそのまよにあらはるる

山科中納言玄國男也從三位中納言享祿三
年九月十三日薨死四十五歳

藤良嗣曰内は海しるものまよやとを貪福難乃
三つ時よりいぢくそのまよにあらはるる
言先後あり内は海しるものまよやとを貪福難乃
三つ時よりいぢくそのまよにあらはるる

九条園白滿教云男也准三衣衣大臣從一位園白

永正十三年四月四日薨^ス七十二歳

藤尚経曰民乃心をわけてなめさる心と
とて國主ハかゝるをばへ主ハおとし民をひ
んととてわけて。うまひ乃夢地とていふ海びと
一とぬわてむ頭ハ熱して。あゝ乃冷たうが妬
然ハ一かなんぞ金からんや。今世を大うや免り呼
良醫酒乃生け世りうれと世りふ

九条國白政基_二男也國白從一位左大臣母_ハ近江國主政賴朝臣女享祿三年七月九月頃死_ス号_ス

後慈眼院

藤原家曰。人なり。人乃ぬた。の。と。神靈を
 了。あ。ハ。神。の。邪。が。と。さ。ま。を。と。た。う。く。百。
 正。心。を。種。ら。て。人。乃。邪。正。は。あ。り。と。照。る。あ。
 く。さ。や。さ。い。と。や。さ。の。が。と。さ。の。を。國。賊。が。と。
 一条教房。園白男也。号。玉佐。一条正二位中納言。天文
 八歲十一月。於。去。任。回。年。
 菅長直卿曰。吾。氏。見。字。て。う。ろ。う。び。を。見。字。て。
 て。ハ。お。と。ま。は。じ。む。の。ハ。と。世。に。ま。ま。と。く。賢。人。と。

をいふん。言ふか。おかしうあつ。あやう。こ。はまの
人。の。なり

後中納言純長之男也正二位大納言大永二年

九月六日薨八十二歳号高辻

菅長方。曰。人。の。死。は。諸。て。結。を。か。ふ。は。い。か。と。
人。乃。言。を。受。て。い。か。む。の。や。を。め。も。が。あ。う。と。は。
ハ。の。う。あ。や。諸。此。三。乃。の。を。天。い。う。り。て。う。
な。う。う。と。は。ろ。の。と。そ。ろ。ろ。あ。う。ま。り。日。な。う。う。
一。て。因。果。を。う。く。あ。う。う。と。

菅淳嗣朝臣男也正三位少納言應永十九年三月

十九日平家實豊之長之男也

後為清。曰。吾。人。を。と。う。う。う。我。用。ひ。て。人。を。あ。う。り。
い。乃。め。い。と。な。う。あ。う。の。あ。う。う。我。用。ひ。て。人。を。
そ。く。な。い。回。家。を。を。ふ。う。を。の。ま。我。失。ぬ。

五条大内記為守朝臣男也後光嚴院侍讀左大

弁文章博士兼議正三位母源政頼朝臣女嘉吉二

年十二月廿九日薨贈大納言

後秀長。曰。吾。書。を。た。ぐ。ひ。か。う。こ。ま。う。と。入。あ。う。い。
故。終。乃。を。か。う。う。て。目。に。進。ひ。あ。う。う。う。う。う。う。
と。乃。道。も。か。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

子部三言卷四

卷六

口入冊五卷

三

口入冊五卷

三

源重保朝臣曰。年号秘りやうり世にあらしてまう
 人なり。だんそつ天子の御考成りてまう御考その
 年しとまなり。是神傳の要なりや。今乃人
 りやうのまこと秘りてふはとむ。是よりぬる
 なり。まのぬるやうて。今まうふのりそバ
 傳へをくを。とま。とほいあ。先

う源氏庭田系議重綱。男也。正四位上。左中
 將母。大納言。孝女也。又人法若淨水号。謙徳院。
 源氏親卿曰。りく。乃人法を笑。りや。と。神傳の
 を。一。儒人の二道ををひき。八。根なり。さ。む。乃

と。り。なり。が。む。り。智恵乃鏡。は。り。り。時。あ。り。
 り。り。あ。り。吾神。を。り。と。て。三。千。客。乃。極。上。な
 る。む。し。の。ひ。の。ふ。り。く。下。神。乃。一。大。事。儒。道。二。大。の
 佛。道。三。大。の。り。り。を。あ。り。や。

村上源氏伊勢國司左中將源政卿朝臣男正三位
 中納言神道達人達。佛儒二道。法名真佛。
 源通言。曰。ふ。こ。も。り。せ。乃。國。主。の。公。家。乃。大。歌。乃。氏。
 乃。く。を。花。の。納。く。金。銀。と。我。は。又。孫。奇。を。の。め。め
 て。ま。よ。り。の。智。恵。の。火。と。え。て。亡。念。乃。ふ。り。く
 つ。い。の。り。わ。り。ゆ。り。り。海。乃。人。を。い。へ。り。り。

とむら故より方とつるもて其のひなごもあはくは
あつと

宇多源氏綾小路少將有俊の男也正二位中納言

法若景秀永正十五年七月九月卒六十八歳

藤政長云曰仁愛阿く物毎にやうに神法と

うやういへくあらん人そのまはやくとハなと

怨みかく道よりれりぞや其ひてあつた免り

をしそらうぬひは我ながらと妙を授りて

小智と違ひくいふ人とははさうるものなり

中山大納言迹副の男也従一位太政大臣牛車兵杖

應永五年六月十五日薨七十五歳号十樂院法名曰覺

園

藤信量云曰らうとりのあましくなくははさうの

うせうとどあんののま今世も生れて賢者な

るやがけ人をも今をぞ君此さうひをさうじ

り入おまうけ地はむりてりあれを賢人なり

やうらんとゆふ

大炊御門内大臣信宗の男也従一位内大臣実量云

男文明十九年二月九日薨六十六歳

藤雅親云曰あつた乃道より人をも入公よりなり

けり衣のきりえ乃村子多にありて乃うとて
けりあくらあきなりしに腰にのこす人あや
よあやと出づひるるなりしにあき一筋うら
いていおもひのうめをやどわたりなりと
みかけてうめをうてさくあきみさくうひ
たなり月のやけと心地してあきん

飛多井大納言雅清男也正二位大納言文明五年三

月朔日出家法名崇雅哥人也

藤元長曰。その人びあひとれん人そのこと
いとその人教とれん人そのこと教と

うにありぬ道ある事なる人きりて
のなりと事なるなりと事なり

甘露寺大納言親長男也従一位大納言大永七年八月

七日頓死七十一歳道号古日法名清室

藤家房曰。言や位とらひぬるを能なり。けりぬ
なりしとこと官職と云なりしと世友賊なり
くお時なるとぬるぬる仁儀の人なり
いぬりのなり

清閑寺三位資定男也正二位中納言應永三十年

四月八日出家同年七月廿一日薨六十九歳

藤政顯曰。そ乃位よりあつて。人より白髪なり。
ハ私なり。又その應よりあつて。性も私なり。
人此私なる時ハ私なり

勸修寺教季男也。從一位中納言母中納言雅弘
女大永二年七月廿八日。於加賀國井家庄出家。
真顯天文九年九月十五日卒。贈准大臣。贈准槐初
例

藤尚顯曰。人お對する時。色あつて。夢あつて。是を
知るの人はなり。又知る人はあつて。多敷なるべし

藤政顯男也。正二位大納言。享祿四年十一月

十四日。於独坐園出家。五十四歳。法名參龍。改号
宣

藤俊顯曰。人その道に在りて。人代をり。時ハ人なり
か。ゆゑ。その友と知り。その友と知り。或時ハあつ
て。あつ。時よりや

坊城從正位下筑前守俊繼嫡孫。從二位大納言
俊季男也。正二位中納言母宮内少輔兼尚女

文明三年五月十日薨。
藤宣俊曰。その時ハあつて。又さういふは
ものなり。けし。その人なり。そのとき。そのとき

のちが法不誣を勘へて後そ乃のめを懸け

中御門中納言宣方男也從二位右大弁權中

納言應永六年九月十三日薨四十五歲

藤宣胤曰むく物より山よりと詔あり。按るに

神の清座を好くをのむるものなり。うづりけらぬ

さうひをあらう。けはれはむねのハぬくハ十三

日なとやう。一切経よりうやむ。何乃益あり

んや

中御門大納言宣豊男也從一位權大納言母

法中慶覺女也永正八年十一月十五日生家七十歲

大永五年十一月十七日薨八十四歲

藤賢房曰人々もあうくす。對する時をのちり

合とふ合とあつてもあつても不合乃時。うら言の

うら言の合うは後言乃ほまきあつてもけ二言を

うら言の合うは後言乃ほまきあつてもけ二言を

毎日脈と下

万里小路從一位冬房男也參議右大弁母雅長

女永正四年十月十日卒四十二歲實教秀三男

也

永正時朝臣曰。物より山よりと詔あり。按るに

ある時ハ物や家と我てあるも物や我より付
なり。捨てはる人ありや。まわくそものへある

百里小路賢房三男也右中將從四位上為孝
経子天文元年八月廿二日卒三十一歳

藤範久言天下は十三人乃知人あり。子孫をよめじ

くくく。これなり。人忠なり。人ぶ。う。海り

く。う。あ。人。あ。み。お。あ。う。人。酒。あ。の。あ。人。

あ。あ。び。た。づ。る。人。あ。う。い。く。あ。る。人。あ。う。ひ。や。う。し

あ。む。人。い。ご。双。あ。う。く。乃。勝。負。あ。め。る。人。く。し

く。し。あ。う。あ。の。む。人。い。く。さ。う。縁。を。り。と。あ。て。そ

き。このむ人。内。縁。を。ぬ。く。物。を。な。と。人。あ。の。う。こ
乃。ま。い。な。ひ。や。り。て。あ。は。か。さ。り。わ。る。人。が。り

高倉範音朝臣男也泰議從三位母佐貴媛領

子頼朝臣女也天文十五年七月九日卒

藤海継言。人。う。う。け。う。や。く。こ。も。考。ひ。な。り。あ。あ。あ。

く。く。く。あ。う。く。も。智。恵。あ。て。せ。あ。る。ま。乃。う。さ。の。の。ハ

あ。や。忠。と。は。な。く。さ。の。の。なり。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

姉小路中納言基経男也泰議從三位永正十

年五月廿九日於飛鳥卒四十九歳号常流

飛彈國司之廢流也

藤英兼二曰。邪なり。のまは用ひく。時よあつるをよ
一やとらう世も。十年をさるゝ人。こもぬるも
なり。吾人。成もさるゝて。時乃。整なる。成なり。と。整
賢乃。成と。あつる。人。世にも。ぬる。人を。さるゝ。ひぬ
世も。み。さるゝ。あつる。に。し。う。か。と。治る。是。右。今。の
續。て。た。が。り。と

水云。願従二位季兼。男也。衆議従二位天文八
年卒。七十一歳。号。天徳光寺本願。一切經書人也

江島吉祥寺草創

藤季國曰。人。是。北。や。も。ろ。の。成。一。乃。種。う。て。何。よ

て。と。み。季。も。十。年。と。は。も。ぬ。ま。は。り。か。と。上。の
乃。あ。つ。る。と。あ。一。生。み。ひ。乃。ま。か。る。物。なり

滋野井中納言教國。男也。正三位中納言実公

治二男也。天文四年七月卒

藤季時朝臣曰。か。と。も。ろ。く。乃。道。を。習。ひ。あ。る。に。
う。か。ひ。上。の。乃。位。よ。ぬ。る。時。人。う。あ。つ。る。なり。の
なり。是。ハ。成。よ。且。心。あ。つ。る。と。乃。本。公。を。と。ら
ま。ふ。と。く。を。道。な。か。り。を。の。も。つ。本。公。を
先。ひ。知。なり。一。生。を。い。と。あ。つ。る。と。乃。位。う。ぬ。る
人。が。え。け。つ。あ。る。なり

嘗ハそ乃夢ふれなりねとらんやんやん事と
乃謂ふ

菊亭正二位右大臣實直公男也從一位右大臣實
公直公男也應永廿八年六月十日薨

藤公興云曰君主臣下乃いさをたたりけり

國家くはつと賢臣海のうさばは来る君主下

乃諫を容るる毎はつ時ハ國家みでる也

と久良臣よりぬ

菊亭正大臣教季公男也從一位右大臣母永豐皇女

永正十一年二月四日薨号法雲院本名公尚

藤實宣云曰昔心ありの多し地はあつた也天は

を官職は職と云ふそ是天心なりぬ

ちよありのハ高徳は住一が家よりたつてやん

しと天是を多し地はなひありぬ是又天心乃

外なりが移へなり

西園寺公藤公男也從一位右大臣天文十九年十月

二日薨四十歳号後觀音寺

藤季種曰仁徳をわたりのそ天地乃災なり鬼

亦乃害なり事ありそいそんや人わたりてそ

なり事あり故に仁徳乃みろそいそいそく

天地乃為なり

中御門大納言宗繼男也正二位准大臣大永三年
九月十五日薨八十一歳音樂長

藤基春曰人主やうてハその心誠おぐうん民を
りく方新法を定乃く親津なり今吾等
ぬ人主ハ民乃父母とはいふ民乃大敵なりハ大敵乃
世乃多うてくばしみの民乃多うてにさけつ
持明院三位基信男也正三位左近衛督大文宣
八月十日薨八十三歳号大永院
藤基圓曰皆人乃賢さなりあておるくぬ多し

吾神明乃おとてをあらうて外の家入り一大
事乃因縁をす神祇として外乃事のたゞみ承る
ゆをのむにあらうと友を求てく外むす。あ
念乃面むりて念をりあらうり。三ふ家
とこりて失ぬみくをくめて又外家の免
け事。三世あひくこみ父母は孝なりぬり一時の味
はゆひて厚味はあつてあこし金銀をけい
やとる福ありてあらうと位人ハ貪弱乃身
かりてたりをそへあくる。年うりて出仕る
り。出家乃てぬくべ外は云ふ不及たう身れう

巨然一てある

園正二位基富（男也）正二位權中納言文明十
九月六日薨（六十五歲）祈（テ）弁（天）賊天（後中）得（タリ）宝珠
果而現在室中（云々）

藤政爲官人。某氏服して多病を爲し。食を食し。飢を食し。事を食し。のがたきて多病を爲し。乃ち此乃ちさうひをハ旅人乃ちあていまご。学又志て然をささむ。道氏志る人の。是。よく知人あるや。いまご。我志る人をみる。

冷泉大納言持爲心男也正二位大納言法名宗盛

天文十二年薨六十九歲哥人鞠音樂長

藤隆とうりゅう 継ついで 曰いふ 人ひと 少すくなく 幸さい 不幸ふさい 八は 天てん 一いつ もあふふど 地ち

油小路大納言隆復^ス男也從二位中納言天文
四年七月七日薨^ス八十八歲蒙^リ勅詔^ヲ以^テ公字^ヲ書^シ
与^ニ諸家^ニ凡^ソ公武之人數八千七十五人^ニ

藤隆量、曰、君を好む、邪を去り、文を収め、血氣

藤内亮て曰人乃心さや一と物なり人食ふ時を
吾人なまやと見いふ富貴なまハ悪人なま
是と辨ひく交ふひぬびう人れりよ人
の心なまやいふと各別乃謂なま今世
乃人なまやいふいふや一と心なり

裏松中納言政資男也大弁正位権大納言本内尊亮
澄母下野守源教春女天永七年正月十三日於川勝寺討死
五載法名道宗道号花谷武畧達者也

藤原光心曰今世聖代乃くかど人々事安かど
さなりみかたり欲うと世なり六依之仁義と

とと人なり然る欲乃けりなりけりて是とい
らんよまくけりてゆく國安く聖賢乃地より入て
殊乃君子玉やらん事十と路乃けりみそ乃切る
るべし先國よ仁義あるを約を出一孝子忠
節道徳なりびは諸藝乃けりいひ道乃けりも時
食ふくいひれいひもいひるなりなりなりなり
しきなりなりなりなり孝忠道徳なりもそ乃なり
秀あり浅なり評し合ふ裸衣ありん時の大欲
不るなり人々孝子忠臣道徳なりせては福ありん
や二六時中にせ孝なりせ忠なりせ道徳なりなり

祿をむさへん時をむさへくは洋ん。うゝ老ハハ
 せ。此事。次第。人。乃。骨。ま。し。人。乃。ま。い。く。ま。
 一。く。成。て。親。を。む。者。乃。君。日。不。思。の。思。なく。友。
 一。い。に。り。乃。心。あ。く。目。は。仁。義。乃。人。出。来。て。だ。と。て。
 一。郡。を。あ。え。天。下。代。持。つ。ん。や。と。も。乃。あ。く。て。ハ。
 一。市。や。え。ほ。乃。賢。人。も。出。来。ら。ん。と。の。い。く。飛。を。
 一。を。の。道。に。お。け。せ。く。首。を。と。思。う。と。あ。く。に。う。
 一。と。と。と。取。な。る。乃。産。り。さ。時。は。つ。乃。思。ふ。さ。事。
 一。乃。通。ハ。全。世。ぬ。馬。乃。む。ら。を。お。し。ぬ。な。る。牛。
 柳原左大臣資廣公男也正二位權大納言母

阿波守源満直女永正六年十月五日薨六十歳法

名忍寂

味縁光。て。日。親。乃。孝。う。さ。よ。い。乃。あ。く。び。王。人。は。忠。
 一。事。た。う。乃。や。忍。ん。ど。れ。さ。人。乃。子。孫。の。か。
 一。へ。あ。る。を。と。り。立。か。人。を。是。入。う。あ。く。と。忍。ん。ど。
 一。は。あ。る。人。な。り。い。ん。と。も。い。に。も。く。親。乃。人。を。持。
 一。も。も。う。通。う。乃。親。乃。と。う。さ。と。と。と。と。と。と。と。
 一。乃。家。に。記。録。文。書。紛。失。一。或。い。や。し。中。の。母。
 一。も。う。ら。り。あ。く。い。れ。乃。か。を。く。し。持。は。あ。く。乃。身。
 一。を。あ。く。な。さ。ハ。人。乃。う。り。乃。乃。く。乃。一。或。や。乃。

をよりあふあふふとの勢をあらわたり。是
をよりふふふふふふふふふふふふふふふふ
人なり故なり

武者小路大納言資世男也從一位權大納言乙
者縁種母沃田武藏守源忠範女大永四年八月
四月薨八十四歳号澄海惠相

藤光純曰。賢人をいふは賢人といふ求る事な
る。謂なり。世人はぬめる勇者又大お筋ノ
外法。乃るその類をいふ。是を求るは難
し。難し。と云ふをいふ。求る時。その難し。

なり。又、好し。求るや。いふ人を求るは。いふ

竹屋治光朝臣男也右衛門佐正三位大文九年六
月出家寂榮同七月十日薨六十四歳

清原枝賢朝臣曰。富貴高位ハ学文ノ款なり。貧
病孤獨ハ学文ノ種子なり。諸君乃根なり

清原三位良宣ハ二男也從四位上伊豫介大外記
天文之北曰清賢人也住于江易之時十三經其

外軍書等々書寫及奏覧多
橋以量。曰。世人ハ学文を好む。乃外家の大
く。たる。事。と云ふ。いふ。是。と云ふ。生。得。る。不。気。根。

薄三位以盛之男也氏長者從三位明應五年

中京なかつくさ師し弘ひろ朝臣あそみ曰い云ふ家武けふあそみあそみををたふたふりりててああん

時ハ中ちゆうニ、時々ときとき門かどハ出入でいりだすをくゞせよ。是こゝより進すすむめはるはし
乃不幸ふこうなり。身みなりき。如流じうりゅう出来て。くわいて先祖せんそ乃なほ
くこと半はんなる物ものなり。くやく隱居いんこ氏しとくぞの隱居
と云ハ別べつ乃日ひあゝと何なんとてをのめる知りた
いちり一藝いちぎをとく名なをくし。身みを養やしなふ事ことなり。時々ときときぬき
ぐ。あゝいせよ。出いではる天理てんり乃好このなり。

中原大外記師朝朝臣男也穀倉院別當文章博士大外記正四位上母源高保朝臣女也江勅中

ふみふみ。是ハやうつひとありてたゞと申すもの
かけさハ。少とあるあかん。おやともあ。新つて。そ
氏乃父母を人。人心とく。さう。あ。や

近衛植家云男也准三右牛車兵杖随侍左右
六將從一位関白太政大臣政前嗣母從三位源
慶子法若龍山自然智也

藤信基云曰。今きて人を求る。い。あ。い。なん。あ。り。の
なり。その。新。は。外。り。の。あ。う。す。その。あ。う。く。の。一。族
い。と。を。と。は。なり。人。れ。あ。う。り。や。い。く。い。の。さ。い。
い。海。き。ん。事。と。あ。い。て。なり。が。あ。う。く。人。を。求。り。

又人乃邪。い。ひ。なり。と。へ。あり。と。あ。ん。き。あ。う。と。り
り。の。あ。う。す。の。さ。い。を。や。う。の。あ。う。り。

近來晴嗣云男天正五年元服左大将一位関白
右大臣或信尹号三頼院一流能書諸道文人
母源義亮朝臣女也

藤実澄云曰。吾國ハ神武がなり。と。を。と。り。と。り。王。法
と。や。り。の。さ。い。と。り。元。暦。年。中。う。り。と。武。家。乃。は。後。て
今。よ。そ。と。り。と。あ。い。天。下。乃。武。家。の。さ。い。あ。い。心。治。れ。の
二。を。と。り。と。り。人。れ。あ。い。と。り。と。え。う。り。を。つ。と。仁。徳
乃。の。さ。い。と。り。時。ハ。國。家。榮。久。なり。三。財。を

りて免る浅敷なる時ハ治國が事とてつゞけるに
程あり

三条称名院ニ條ニ男正二位内大臣号ニ三光院法

名曰豪室元者号實世又改實枝

友晴季云曰元神明ハ人ハ心さハ海ハ氏續る

乃人志如きなりて珠味氏續る名をさるる

まのまのやおる人ハ神と云ふ氏ある事如

なり人とも賢くハ海ハ心さるる事

菊亭右大臣從一位ニ号ニ男也從二位右大

臣

友雅敦曰人々なる時ハ人なり人ハ人なり

人なり人なり人なり人なり人なり人なり

人なり

飛鳥井恵相雅春ニ男也参議從三位

源重秀朝臣曰人々なる時ハ人なり人なり

人なり人なり人なり人なり人なり人なり

人なり人なり人なり人なり人なり人なり

人なり人なり人なり人なり人なり人なり

人なり人なり人なり人なり人なり人なり

人なり人なり人なり人なり人なり人なり

多約

宇多源氏從四位上右中將遁世住二瀬山子息繼

源通勝二目。ふ家う亭よ海と。武家がうひつとそ外
みらくく乃の家業ををぬをハナめうさん。ぢり
屋として松乃やいひよそよくれ松を人乃骨
をりて味をり

村上源氏中院通右衛門也法名也足又素然

あなやうに下をめぐむ人もその母の生も人
聖賢（聖人）の生もくも其母

白野大納言晴光心男也實大納言國光男也從二位大納言法若唯心

教^{きやう}光^{くわう}廣^{くわう}樹^{じゆ}曰^{いふ}此^{こゝ}此^{こゝ}乃^{すなは}あ^ある^ると^とさ^さふ^ふハ^ハ。な^なく^く人^{ひと}乃^{すなは}よく^{よく}ま^ま
 一^{ひと}事^{こと}も^も可^べ乃^{すなは}み^みら^られ^れと^とも^もと^と。友^{とも}佐^さ乃^{すなは}深^{ふか}進^{しん}も^も家^けの^のや^や
 多^{おほ}き^きも^も。み^みお^おく^く美^{うつく}金^{しん}乃^{すなは}其^{その}を^をい^いや^やり^りと^とい^いわ^わく^くふ^ふこ^この^の
 あ^あま^まに^に。ふ^ふり^り祢^ね代^{だい}倒^{たう}よ^よと^とて^て。お^おと^とハ^ハ帝^{てい}人^{にん}よ^よと^とい^いふ^ふや^やみ^み
 ハ^ハ。事^{こと}さ^さは^はう^うら^らり^りと^とお^おり^りと^とい^いふ^ふ笑^{わら}止^どな^なら^ら

爲九從二位美門亮宣子男也正二位權大納言近代

奇人能筆一流

藤光豊曰人毎に我を知りて人を知る。我が家、
あんなに家業をいかに継ぎつゝい。道ありぬきと
とんや我とあつた時、我あり。と道ありぬきに、我あ
つた。

勸修寺大納言晴豊公男也元和四年贈内大臣

友氏公曰。公家ハ公家め。うて。公家心成。うよ。公に
此公乃。公ハ公家。公武家。乃。公の心。公の心。
て。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。
く。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。

水無瀬中將親具朝臣男也正二位中納言

友信尚公曰。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。
他人。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。

鷹司関白信房公男也從一位関白左大臣号

桂真院

友直孝公曰。外の公。我の心。我の心。我の心。我の心。我の心。我の心。
公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。
公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。
公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。公の心。

九條関白植通公男也左大臣從一位関白左

大に慶長九年薨五十二歳法名国性

藤昭實公曰人ふかけうまひあつたけりぞ

しそふのしこさうえぬ人ふかきこころひて

ええわうにいふけりしけりしそふかき

そふのつひあけりしこの境よりいふわい

しそふのしこさうえぬ人ふかきこころひて

ええわうにいふけりしけりしそふかき

そふのつひあけりしこの境よりいふわい

しそふのしこさうえぬ人ふかきこころひて

ええわうにいふけりしけりしそふかき

朝に女

藤内基三曰と世人毎に後一面を指さるハ新銅鏡

とてをみる人々をみる鏡を映てみるハ公鏡也

いふも和漢のひりつものなりけり紙乃

とていふ人々をみる鏡を映てみるハ公鏡也

一条関自兼冬云男也従一位関白左大臣実常通

云二男也

公卿部下終

倭論語卷第四終

